

人類の来た道と進む道の自然環境の変動をひもとく

—INQUA(国際第四紀学連合)の活動と日本の貢献—



INQUA のミッション

第四紀研究の研究交流と国際協調を推進する。

最新の地質時代における地球環境変動の規模と進行速度の解明に資する。

地球規模の環境変動の現状と将来予測を評価する枠組みを樹立する。

第四紀は人類が、寒冷化・氷床拡大・海水準変動、突発的な大気・海洋循環の変化による自然・生物の変化とともに進化してきた時代である。

第四紀研究が解明する過去の環境変動・自然災害は、将来を予測して適応を模索するための基本データとなる。

INQUA の活動

- 5つのコミッション：重点研究課題にリソースを集約
 - CMP 海岸・海洋プロセスコミッション
 - HABCOM 人類と生物圏コミッション
 - PALCOM 古気候コミッション
 - SACCOM 第四紀層序・年代学コミッション
 - TERPRO 陸域プロセスコミッション

研究プロジェクト・会議開催支援・技能開発プロジェクト

ECR 若手研究者支援

大会開催：若手研究者・途上国研究者支援

INQUA の活動：日本の貢献

CMP 海岸・海洋プロセスコミッション

横山祐典前VP・太田陽子 元INQUA副会長

HABCOM 人類と生物圏コミッション

出穂雅実VP・東アジアプロジェクト（小野昭・出穂雅実）

PALCOM 古気候コミッション

阿部彩子アドバイザー・IPCC AR 執筆

SACCOM 第四紀層序・年代学コミッション

テフラ研究を先導。町田洋 元COT委員長。チバニアン。

TERPRO 陸域プロセスコミッション

吾妻崇 前VP・奥村晃史 元INQUA副会長

1957年から毎回 INQUA 大会に代表派遣。1990年以降多数参加。
執行委員会メンバー2名、研究委員会・コミッションを主導。

日本学術会議と INQUA

1955年から日本学術会議として INQUAに参画。

地質学研連第四紀小委員会・第四紀研究連絡委員会・地質科学総合研連第四紀学
専門委員会・地球惑星科学委員会 INQUA 分科会9--INQUA小委員会

加盟国分担金負担：INQUA会員収入の ~10%.

代表派遣：1957年大会以降毎回 + コミッション研究会合

名古屋大会共同開催・開催費用負担・天皇皇后両陛下ご臨席

INQUAが取り組む、人類の未来に関わるグローバルな課題への
日本からの貢献は、日本学術会議の重要な成果であり責務である。